

目 次

- ・昭和宮殿のインテリア…………… 1
- ・ICSIDとは…………… 3
- ・新入会員紹介…………… 4
- ・会員近況…………… 6
- ・東京支部新年パーティー…………… 7



No. 37

THE JAPAN INTERIOR DESIGNERS' ASSOCIATION

昭和宮殿のインテリア

岩 瀬 要 三

昭和43年11月14日、日本の伝統美と、近代工作をいかした世紀の建造物である昭和宮殿が完成され、一部未納の家具、調度品の納入をまって、本年度4月より正式に御使用されることになった。この建物の内外の様子は詳細に各種の専門誌、その他グラフ誌上で発表の通り、まったく世界の宮殿建築に類例を見ない平明で格調の高い様式である。

この宮殿は陛下の御住居という要素はまったくなく、国家的な儀式を行なう場所であり、海外より迎える国賓、公賓との会見や引見、駐日の大公使の信任状奉呈式、認証官の任命式、その他国賓一行との晩さん会とか、レセプションなど、国の公式宴会など国際儀礼の場所でもある。表御座所では、陛下が日常の公務をみられたり、総理から政情の報告をうけたり、特別の拝謁される場所で、このように国家的な諸行事の行なわれるところだけに、対外的にも象徴的意味をもつ建物である。したがって芸術的にも格調の高い

昭和時代の建築の一典型を示すもので、新しい技術と材料のなかに、伝統の美しさが求められ、威厳より親愛、荘重より平明を主調とし、国民に親しまれるものという構想が打ち出されたわけである。昭和34年6月皇居造営審議会が発足され、各般の調査を開始、特にその基本となる規模に対する略設計では大体下記の要領で庁内のスタッフと外部よりの専門家の参加のもとで実施された。

宮殿の調査及び略設計

第一節 敷地（附空気汚染度調査）

第二節 宮殿の性格及び用途

第三節 規模

第四節 所要室とその用途及び面積

第五節 略設計

- | | |
|------------|---------|
| 1 様式意匠 | 2 配置計画 |
| 3 平面計画 | 4 立面計画 |
| 5 仕上表 | 6 構造計画 |
| 7 機械設置計画 | |
| 8 給排水、衛生設備 | |
| 9 電気設備計画 | 10 土木計画 |

11 造園計画

12 室内装飾、家具及び調度

13 特殊材料の調査 14 模型

以上がその内容であるが、筆者は当時34年9月より約半年間、主としてインテリア方面の略設計に協力、35年3月一応業務を完了しこれらの調査及び略設計は審議会に提出された。

あれから約10年の歳月を経て、この世紀の建造物が無事竣工されたが、実施計画についても3ヵ年、主として家具類（一部照明器具を含む）の設計を担当した。

さて、こうした新しい建物にふさわしい家具はどんな様式でまとめるべきか、又どんな材料と施工の新技术を取り入れるべきか、かなりその着想に時間をかけた。

昔からテキパクなインテリアでは、最後に家具を搬入して、その配置を終わって一つの完全なまとまりが成立つものだといわれ、この宮殿の場合でも、あの大きな室内に、果してこの目的が生かされたであろうかと、最後までその判断に苦しんだ。もっともインテリアのデザインは、このような建物では建築の設計者と密な協同が必要で、単独に家具とか、シャンデリアだけと分離してデザインをすすめるものではない。特に大切な仕上げの上で、カラーコンという総合的な色調組立は、最重要ポイントである。工事が進むにつれて室内の仕上げに使用する壁張地、敷

物、家具用裂地という段階に入ると、かなり面倒が多く、それぞれの部屋別に使用する裂地類も、テクスチャー、パタンの大小、有無、色調の明度、彩度、光源による発色の程度など、詳細な打合せとテストのくり返しに、かなりの時間をかけねばならない。例えばこの宮殿の中で一番広い豊明殿（床のカーペットのみで約840㎡）の壁張地である綴れ織りの豊旗雲（原画中村隆陵画伯）では、沃素ランプと白熱灯の二つの光源下で、使用された色彩がどんな具合に発色が変化されるか、それによって工場内でも同じ状態の光源下で作業が進められた。さらにその倍層がどの程度の時間使用されるか、それによる心理的な面からうける刺激度も考慮に入れなければならない。

設計の段階でも、重要な倍層は%の模型を作り、一応仕上りの色調を種々の角度から検討された。特に新宮殿の客室をひきしめる重要なアクセサリとなっている絵画では、常に室内空間だけでなく、その絵画を中心として展開されるエキステリアというものまでが考慮に入れられている。このいい例が朝明けの潮と題する南溜の「波の間」を飾る東山魁夷画伯筆の大壁画は、この広間から見おろす正殿前の中庭の玉石の白那智の白と朝明の潮に使用された緑青の青との対比、さらに正殿廊下大杉戸の左右に描かれた桜（橋本明治筆）と楓（山口蓬春筆）は、中庭をめぐる廻廊から白那智の玉石を敷きつめられた庭に、ちらっと廻廊ごしに色取りを添える効果が見られるわけである。

つぎに、ここで使用された資材は、第一次産品を除いて、すべて国産品で、インテリアの化粧材は床材にケヤキ、壁面、天井にはツガ、ケヤキ、赤マツ、春日スギ、吉野スギという古来から使用された日本材といったものが中心となっている。

石材はエントラン、ホールの床に、山口県黒御影を使用され、他には余り使用されない。廊下では大部分20%厚の毛切無地絨氈で、大広間、大食堂の両室は支那式の手織り綴通を敷き込んでいる。いずれも杉山寧氏の下絵によるが、作者自身は綴通のデザインは初めてであり、かなり苦心されたようであった。

さて最後に家具のことにふれてみる。この新宮殿に使用される家具類は、以前から使われる御紋散しという漆塗りに金蒔絵で御紋章を散した椅子のみで、主として儀式用にこの椅子が使用される以外、ほとんど新調されることになった。

この家具類を大きく区分して三つのグレード別があり、その一は南北エントランス、ホールやギャラリーなどに使用するもので、その使用する場所から、木割りもがっちりとした大味で簡潔なものである。第二は大広間（長和殿）第一、二休所、大食堂など、多数の集まる室で、しかもいろいろな行事による多目的の使用というところから、そのつど家具の配置替がしばしばなされる。この点から移動性を考え、重量の制約と格納性、さらに使用上の融通性による各室に共通するスタイルの類似性と、長時間の使用に対する椅子の人間工学的な適合性である。第三は正殿棟の儀式用に使用されるものは、そのグレードも最高級で、しかも品位の高い優雅なデザインであるという以上三つの分類で、家具配置平面図だけでも各種の使用目的から約40通りもあって、いかに行事が多くあるかわかると思う。

この家具類の中で漆塗りで仕上げたものは第一儀式室（陛下が国賓、公賓らの御会見や引見されたり、日本大使の単独拝謁、勲章の親授式などに使用される所）と、正殿の御椅子のみで、いずれも濃いうるみ色仕上げで、椅子張地は絹の綴子である。特に正殿の大衝立（丈3.18m巾8.40m）は天井まで10m近い大空間は、ともすれば天井の大梁の威圧感から常道の手段では、立打ちができない。最後の決定をみた大王松のパスンと古代紫の色調にこぎつけるまで再々のデザインのやり直しの連続であった。しかも儀式に参列される人達に、この衝立が強い印象を残さないという条件だけに、かなりの苦心をくり返した。

ともかく昨年末これらの作品が搬入され、余り大きな破綻も見せず、大体の予期したものが不十分ながら出ているのを見て、ほっとした気持ちがいつわらぬ私の感情である。

る。この会議では国際的に重要な問題が提起されて工業デザインの意義と未来像が確立されてきている。設立頭初は12ヵ国17団体が加盟したにすぎなかったが10年後の67年には32ヵ国48団体に拡大され名実ともに国際的団体に発展した。日本での加盟団体はJIDA (Professional Member) と産工試 (Non-professional Member)である。

この協会の活動は全世界を通じて、工業デザインを振興し、デザインとその職業実務の水準を高め、また関連分野にある国家的、また国際的諸団体と協力を目的としている。具体的には工業デザインに関する情報の収集、配布、デザイン会議の開催、各国共通の工業デザイン問題の討議やデザイン実務、職業的諸問題の調査、デザイン教育の水準の向上、工業デザインに関連する他分野の諸団体との協力などが行なわれている。

(解説 豊口克平)

ICSID・1969年の招請状がJIDA経由で当協会に送られてきましたので掲載します。書状は以下の如く全文を、詳細は編集部で抜萃しました。申込書及び詳細全文は事務局にあります。なお、豊口理事長をわずらわして、ICSIDの解説文をいただいたので同時に掲載します。

ICSID (International Council of Societies of Industrial Design) 国際工業デザイン団体協議会は世界各国から工業デザイン団体が加盟している唯一の国際的デザイン団体である。

1957年6月、英、米、仏の権威あるデザイナーの発意により、ロンドンで組織結成され、7月パリで設立登録が行なわれた。

その後第1回総会ならびに国際会議をストックホルム(59年) パリ(61年) ベニス(63年) ウィン(65年) カナダ(67年) と隔年開催し、69年はロンドン、71年はスペインが予定されていた。

れる会議に出席するだろうと期待されています。会議の費用は80以上の英国の有名会社と貿易委員会保証されています。

ICSIDは1957年、世界各国のデザイン団体を糾合してロンドンに設立されました。現在は32ヵ国、2万5千以上のメンバーで47の協会からできています。過去10年間、会議はストックホルム、ベニス、パリ、ビエナ、モントリオールで開かれました。

会議を組織し、国外からの多数の出席者の準備のため、委員会は2つの英国のスポンサー——SIAD (産業工芸家及びデザイナーの協会)、とCOID (工業デザイン会議)——を決めました。そして前SIAD会長のJ・Reid氏とCOIDのディレクターPaul・Reilly卿をそれぞれ議長、副議長に決定しました。またW・Goodden氏は1969年のICSIDの代表者に任命されています。

会議の費用は25ポンドで詳細および応募用紙はICSID '69の事務局、12 Carton House Terrace, London SW1に書面で請求して下さい。学生は10ポンドの低費用で参加できます。

一 詳細

会議……会議は興味のある人は誰でも出席可能で、9月10日から12日まで開かれます。

言葉……会議用の言葉は英語、フランス語、ドイツ語が使用され、これらの言葉による印刷物や同時通訳もあります。

テーマ……「デザイン、社会、未来」

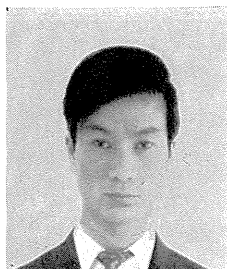
その目的は国際的に知名な講演者を招き、仕事のそれぞれの分野における未来の発展を会議で呼びかけ、世界のデザイナーに決意をうながします。会議の主調ーデザインの問題は新しいアイデアを新しい製品やシステムに変えることを推進する一すなわち革新にあります。講演者氏名は3月の最終プログラムで発表します。

ー ロンドン国際デザイン会議 ー

英国ではじめてのICSIDが9月にロンドンで開催され、世界中からのすぐれたデザイナーが集まります。会議のテーマは、工業技術の可能性、人間、社会的要因を含めた「デザイン・社会・未来(Design, Society and Future)」です。会議はサイバネティクス、技術面の予測、社会学などの主題に国際的なスペシャリストが呼びかけられ、計画者、指導者、科学者、技術者などとともにデザイナーが未来を形成することに如何に参加しうかを討議します。

32ヵ国から約750名の代表者がニュー・クィーン・エリザベスホールとサウスバンクのパーセル・ルームで開か

新入会員紹介



正会員（東京）鈴木 憲治

（昭和12年4月30日生）

西武総合学院デザイン科を35年に卒業、アキバ百貨店、東洋工芸（株）を経て、その間東京芸術大学美術学部の聴講生となり43年に修了。41年に株式会社ベルツ・インダストリアル・デザイン研究所を設立し現在に至っております。推薦者の水江忠臣・渡辺優両氏は、「量産の金属家具の商品条件を良く考え抜いた、すぐれた商品としてまとめられる数少ないデザイナーとして今後の活躍は、充分正会員の資格を示していると思う」とのべております。

事業所 株式会社ベルツ・インダストリアル・デザイン研究所

TEL (996) 3 0 2 2

現住所 練馬区谷原5-1-14

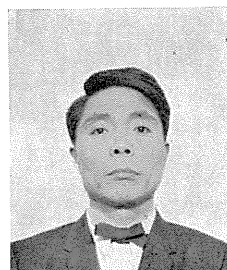
TEL (996) 3 0 2 2

正会員（東京）田中 博

（昭和9年11月23日生）

京都伏見高等学校木材工芸科を28年に卒業、三田木工（株）、東京木芸社を経て、31年に富士自動車（株）に勤務され現在に至っております。推薦者の白石勝彦・中西三郎両氏は、「企業内

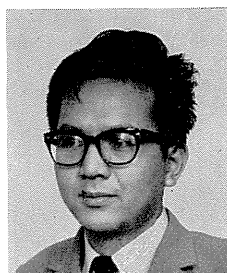
におけるスタッフデザイナーとして広範囲にわたる識見を有し、思想、造形、技術的にも極めて積極性があり会員としてふさわしい人柄だと思う」と推薦しております。



勤務先 (株)富士自動車

TEL (421) 6 1 4 1

現住所 品川区北品川1-5-1-404



正会員（東京）矢田 秀治

（昭和14年10月27日生）

青森県立青森工業高校木材工芸科を33年に卒業、魁育児家具（株）に入社し、その後日本デザインスクールインテリアデザイン科を38年に卒業し現在に至っております。育児家具という特殊な分野で10年のキャリアを持ち今後の活躍を期待されており、推薦者の中村

白土デザイン

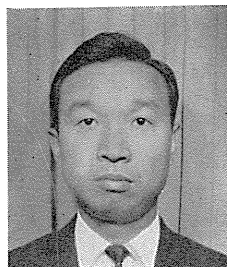
圭介・鈴木栄二の両氏も「10年の経験を生かしオリジナルのある商品性のあるデザインを、着実に販路を伸ばし、協会の広い分野でのデザイン活動に期待したい」とのべております。

勤務先 魁育児家具株式会社

TEL (401) 9 1 2 1

現住所 杉並区高円寺南4-30-12

風見方



正会員（東京）山品 元

（昭和10年2月22日生）

千葉大学工業短期大学部木材工芸科を35年に卒業され、すぐ日本コロニア（株）に入社現在に至っております。推薦者の狩野雄一・榎田均の両氏は「音響と建築の結合というのはインテリアデザインのこれからのテーマでもあり、彼は8年間のキャリアとともに新しい分野の追求に情熱をもち意欲的に歩みつけており、これから期待できる新人と信じています」と推薦しております。

勤務先 (株)日本コロニア

TEL 044 (24) 6 1 1 1

現住所 藤沢市善行団地5-10-105

TEL 0466 (24) 4 0 5 2



正会員（東京）瀬尾 一嘉

（昭和8年7月15日生）

高校卒業後堀内デザイン事務所に勤務され、その後日本大学芸術学部美術学科を36年に卒業され、東神（株）に勤務。39年にセオ・デザイン研究所を設立、現在に至っております。推薦者の豊口克平・今井滋両氏は「彼の作品は地に足のついたしっかりしたもので、本格的な既製家具をデザインする熱意と努力を認め将来を大いに期待したい」とのべております。

事業所 セオグループ・デザイン事務所

TEL (256) 5 5 4 3

現住所 神奈川座間町相模台1103

◆新賛助会員紹介

アイカ工業株式会社

“AICA”の名でメラミン化粧板を生産し、製品は国内のみならず、海外にも多く輸出され、現在ポストホームिंग化粧板の開発に力を入れている。
本 社・名古屋市新川町西堀江2288
営業所・東京、大阪、名古屋、広島、札幌、新潟、九州

会 員 近 況

- ・鈴木憲治（ベルツインダストリアルデザイン研究所）

読売新聞全国版44.1.5日

「未来の有能社員は」のスチール写真に「ムダのないオフィス」レイアウトに「オフィスの未来図」としてコンピューター時代のオフィスの姿として写真が掲載されました。

量産家具，金属コンビ書庫デザイン
44.1.14日「インテリアデザインとその応用」

44.1月下旬 題未定

昨年来講演，講習会

43.11.15日「インテリア・デザインの実際オフィス」

43.11.19日「やさしい図面の書き方基本編」

43.12.12日「オフィスレイアウトの実際」

- ・鈴木栄二（株）睦屋商店

睦屋丸ビルインテリアコーナーを開設いたしましたので皆様ぜひ御利用下さい。

<東京支部>

- ・有川勲一（錦江建築研究所）
ファンタジー洗車場設計監理中（世田谷）
テング堂洋裁店設計中（浅草）
- ・梶谷通男（家具の上野）
43.12月 宇都宮市役所市議長室，副議長室，応接室，議会事務局受付の家具設計納入。
43.12月 今市農業改良普及所 農業改良普及事業20周年記念祭，展示，協力とパンフレット著（インテリアデコレーション）
- ・剣持勇（剣持デザイン事務所）
プロデザイナーとしてデザインコンペに対処する際の姿勢(status)を確固たるものにすることをこの際進めて下さい。例えばフランスベッドのデザインコンペの規約は余りに企業者に一方的でデザイナーの立場は無視に近い状態で扱われていると思います。
- ・光藤俊夫（竹中工務店）
パシィクラブ（GOGOクラブ）
1968年10月竣工

- ・高橋岩夫（三宅建築造型事務所）
レストラン・ナボナ（綱島）インテリア設計監理中
株式会社三和電気製作所羽村工場インテリア設計中

- ・大院克彦（大島木材工芸）
北海道銀行平岸支店，亀田支店，八重州ホテル家具設計納品完了
北海道信用保証協会，北海道銀行旭川支店，その他住宅家具設計中。

- ・豊口克平（豊口デザイン研究所）
万博（電気通信館）内部設計中（電々公社）13日家具デザイン教室へ出講。

- ・藤原庸弘（三重大学）
津市近郊に地区の診療所の新築についてインテリアを担当いたします。
来る3月末に私共の大学は津市上浜町に総合され将来教，農，水，医，工学部の総合大学になるようです。

- ・三宅征郎（三宅建築造型事務所）
株式会社三和電気製作所羽村工場第一期新築設計中

上記会社独身寮社宅設計中
銀座マキシ・ド・ビル工事監理中

- ・村松洋雄（高島屋横浜支店）
三菱信託銀行横浜西口支店ファニチュアーデザイン
横浜銀行支店長室ファニチュアーデザイン
大坊本行寺インテリア設計管理

- ・吉永淳（産工試）
著作（株）工作発行 室内 No 69年1月号に「標準寸法の学習家具」（株）双栄発行 インテリア1月号に「家具展詳」
I A I 発行 産業工芸試験所報告 58号「家庭用流し，調理台高さの研究」

その他

- 43.12.10 工業技術院工業標準調査会専門委員（厨房家具関係に依頼される）

<大阪支部>

- ・合田正甫（日建設計工務）
昨年末，阪和興業，西日本建設保証ビル，大阪資生堂事務棟各インテリア・デザイン，工事を担当。
- ・池辺武彦（(株)東急百貨店）
グァム島，フジタ，タモンビーチホテル家具納入 秋木，オカムラ，コスガなどの製品でノックダウンにて現地組立をする。
- ・池本要（大丸室内装工部）
現在，某邸（木造住宅）建築設計監理中
- ・植木末魚子（フリー）
昨年12月16日より22日まで，東京丸善画廊にて「第5回土と火のインテリア展」を開催しました。
- ・川崎浩（大丸デザイン室）
昨年，新宮殿東庭の照明塔（若松塔）および舞楽台（分解可搬式）のデザイン，製作を完了。11月14日，新宮殿落成式に招待参列しました。
- ・矢留富三（石川島播磨重工業）
船舶の室内について購売担当の立場から，デザインを含む室内装備基準について検討を行っています。

◆東京支部 パーティー

1月18日（土）八重州苑にて30名の出席により新年パーティーが行なわれた。

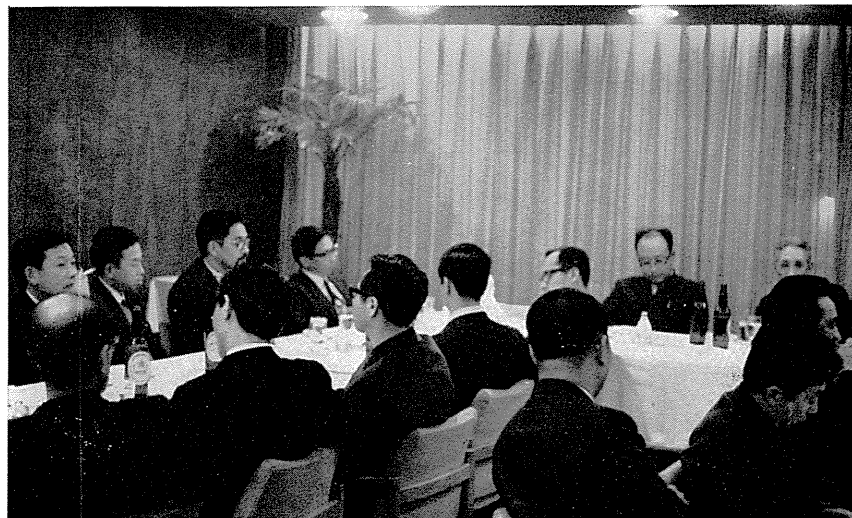
山口氏の挨拶に豊口理事長より10周年記念インテリアデザイン会議についての話題が中心に進められた。話題の中からいくつかを拾ってみると、

- ・今後の方向として法人化の取得
 - ・協会の内政面における問題の解決
- インテリアデザイン会議は特に若い層にアピールした。

大阪支部記念展には20点ほど展示（家具）された。

九州支部ではニックの会場での講演会では150人の参加があり、ここでも若い人が中心であった。裾が広がった感を強くした。

インテリアデザイン会議の講師のセ



レクトが問題であり、またデスカッションに会員がメンバーに入らなかった点は反省の必要があろう。最初から会員は逃げ腰であったのではなかろうか。

お互に職域を通してのデスカッションが必要であり、建築学会は50年の歴史があるが、われわれは未だ10年を迎えたばかりで、これから活動期に入ったといえよう。

今回は新年パーティーならぬインテリアデザイン会議反省会になってしまったが、しかしやってみなければ判らぬことである。

皆さん今年も発展のために頑張りましょう。

（東京支部 鈴木栄二記）



■編集後記

青山墓地の深夜は駐車場として利用されている。

肌寒い夜車のフロントガラスはシットリとあせばんでいる。どうやらここに駐車する車には人が入っているらしい？

この墓地も、きれいに桜がさき、もうすでに葉桜となってしまった。

この時期になると、どこもかしこも年度の移り変わりで多忙なころ。

協会も今年度は創立10周年を迎え、いろいろと多忙な年だった。幸い会員諸氏の協力で記念事業も無事終えることができ、また新しい気持ちで協会の発

展のために活動してもらいたいものです。

会報部会でも本年度の一番大きな仕事として、10周年記念事業での協力を第一のスローガンとしてやってきたわけですが、最後のしめくくりとして、議事録もでき上り、漸く会員諸氏のお手もとに、お届けすることができ、今期の任務も終え皆ホッとしているところです。

この会報部会のメンバーも3年間ほとんど変わっておらず、各方面からも会報部会のマンネリ化がいわれておりますが、幸いにして年度のきりかえ時で

もあり、来期の部会のメンバーもこのへんで新旧交代して、会報の充実と協会発展のために活動していただきたいものと思っております。

また部会の計画として、海外に駐在している方々からの「海外だより」なども企画しておったのですが、これも実現できず本当に残念に思っております。

ともあれ来期の新メンバーでの斬新な企画にわれわれ部員一同、期待しております。

（東京支部 高橋岩夫）



機関誌・J I D・37号 昭和44年3月 発行 発行人 豊口克平 編集 日本室内設計家協会
発行所 日本室内設計家協会 東京都渋谷区神宮前1-14-34森ビル (郵便番号 150) 電話 403-6647
会報部 部長 三宅征郎 部員 (東京) 泉修二・織田武己・香西啓三・鈴木栄二・高橋岩夫・竹内篤・牧野達夫
副部長 本田安治 (大阪) 川崎浩・合田正甫・児玉潤吉・並川拓史・房谷守啓 (五十音順)

印刷所
(株) カタログ社
TEL (907)2151